

●コレクション・データ

時代 古墳時代 後期

出土地 羽子田遺跡

発見年 1897年

大きさ 長さ 74.4 cm、復元高 60.3 cm

展示位置 第3室・「埴輪の世界」



唐古・鍵考古学ミュージアム

KARAKO-KAGI ARCHAEOLOGICAL MUSEUM

ミュージアムコレクション 50

百年以上前に
見つかった牛形埴輪

今回、紹介する牛形埴輪は明治30年（1897年）に羽子田遺跡、現在の田原本幼稚園の東隣接地に当たる場所から出土したものです。長らく東京帝室博物館に収蔵されていましたが、関東大震災を経て第2次世界大戦の折、奈良の帝室博物館（現・国立奈良博物館）へ疎開・移管された幸運な埴輪です。この埴輪は、当時としては例が無くほぼ全体の形が分かり造形的に優れた埴輪であったため、昭和33年、国の重要文化財に指定されました。

この度の当ミュージアム開館に伴い、本館の目玉として町に返還してもらいました。現在でも牛形埴輪は全国で9例ほどしかなく、全体像の分かる資料として重要です。

この牛形埴輪は、大きな胴体に小さな頭部、肉付きの豊かな胸や背中、角の痕跡など写実的な作りで、牛の特徴をよく表しています。

このような牛形埴輪は、5世紀に遡るものもみられます

が、大半は6世紀前半ごろのもので、弥生時代にも牛馬骨の資料がありますが、疑問視する意見もあり、3世紀の「魏志倭人伝」の「牛馬無」の記述などから大勢としては、古墳時代中期以降に大陸から運ばれてきた動物と考えられています。

当初の牛の利用目的はよく分かりませんが、7世紀には犁の出土や水田跡に残された牛の足跡が見つかったことから水田耕作を目的として利用していたようです。牛耕の出現はその後の水稲農耕の効率を飛躍的に高めたと考えられ、農耕技術の革新を考えるうえでも注目されます。

また、飛鳥時代にはヨーグルトやチーズに当たる乳製品（酪・蘇と呼ばれる）の存在が知られていますが、このような乳製品や食肉についてはその後の歴史のなかでも不明な点が多く、家畜としての牛の研究は少ないのが現状で課題が山積です。

唐古・鍵考古学
ミュージアム
【 ☎ 34・7100 】

開館時間 午前9時～午後5時（月曜は休館）

観覧料（カッコ内は20人以上の団体料金／15歳以下は無料）

▼大人 200円（150円）

▼高校生・大学生 100円（50円）

ミュージアム上面図と展示位置

